

日本性学会雑誌第8巻2号 平成2年10月1日発行

日本性科学会雑誌

JAPANESE JOURNAL OF SEXOLOGY

VOL.8 NO.2 OCTOBER.1990

JASCT

Japanese
Association of
Sex
Counselors and
Therapists

日本セックス・カウンセラー・セラピスト協会
JAPANESE ASSOCIATION OF SEX COUNSELORS AND THERAPISTS

巻頭言 — 会長基調講演から —

松 本 清 一

思春期には、明確な性的アイデンティティを身につけて自己を確立し、親離れして社会に出て行くことが、重要な基本的発達課題であり、今日その発達不全が多く、神経症や種々の問題を発生させていると考えられる。

今年は暑い8月に性に関する多くの集会やセミナーが集中して開かれた。私が参加し得たものだけでも、全国性教育研究大会、日母性教育指導セミナー、東京都性教育研究会宿泊研修会、日本思春期学会、思春期保険セミナーと多彩で、これらの会合を通して今日の子供たちの性の発達について多くの重要な問題が提起されたが、その中で自己確立に関して浮き彫りにされた幾つかの問題について述べてみたい。全国性教育研究大会では、基調講演で間宮名誉教授は性の考え方が生殖本質観に基づく性から、人間の生き方としての性へと転換する気運があると述べ、ハワイ大学のDiamond教授は、日本では教育上や仕事上の成功を得るために個々の人間の成長発達を犠牲にしており、性教育の中で一人一人の人間が社会的だけでなく、性的な面でも自立させるように助けることが大事と指摘し、他の研究会でも個性を伸ばす教育の重要性を強調した。

日本思春期学会のプレコンgressでは、小此木教授が思春期の精神発達課題は親離れと自立が基本であり、子供は独立してゆくものとして育てる外国に対し、子供のための親だと思わせるように子育てをする傾向の日本では親離れの大変さがあると述べ、精神科医の小尾氏は子供達が不自由で没個性的な教育環境に置かれていることや、大人の都合に振り回されて辛い孤独な境遇に耐えていることが思春期の神経症を多発させていると訴え、対策として発達年齢に応じた豊かな心を育てる養育や教育、屋外の遊び、押し付けでなく子供の自由な発想で創造性を高める教育、社会性の育成などを強調した。

学術講演会では、大国教授が学校保健からみて、起立性調節障害を含めた自立神経失調症、神経性食思不振症を含む摂食障害、登校拒否症、非行、校内暴力など社会的背景を持つ問題の対策の確立に多くの問題が残されていると述べ、NHK解説委員の野原氏は家庭教育について、父親の触れ合いの少なさ、優しすぎる父親、単身赴任、母親の学業に関しては過保護、過厳格、その他では不干渉、放任、無関心が問題とし、家庭教育では学業から離れ、子供の適性を見つけてやること、適度の欠乏を与えることを提言した。

思春期の悩みとその対応に関する2つのシンポジウムでは、「体の悩み」について司会の五十嵐教授は自我確立への過渡期には、食物に対する自我の確立を模索して、偏った栄養分布の食事に陥り易いと述べ、森博士は過敏性腸症候群、胃炎、胃潰瘍、神経性食思不振症、プリミヤなどの胃腸障害が青春期内科患者の35%を占め、殊に最近摂食障害が多く、その原因として受験勉強、人間関係、家庭環境、学校環境などのストレス、不規則な生活リズム、しつけ・育児の歪みなどが重要で、対策としては自我の強化、独立の依存と葛藤の処理が大切であり、胃腸障害は疾病ではなく、一つのサインで、その背後に何があるかを考える必要があると指摘した。

「心の悩み」では、司会の平井教授が登校拒否はわが国独特な問題で、その原因は乳幼児期にさかのぼる例が圧倒的に多く、意欲と思いやりが幼児期に育てば思春期の問題はなくなると指摘し、教育社会学の松本氏は、青少年の非行は幼稚化構造の産物で、親への過度の依存、小学校の弛緩した環境と中学校の過度の緊張、マスコミの幼稚化推進が原因として指摘でき、その打開策として大人の自立、中学校での受験やいじめによる過度緊張の緩和、問題に対する個別臨床的対応と社会政策的対応との連携が必要と述べた。

このように子供達の自我の独立と社会への適応を援助するために、家庭や学校の養育・教育環境の改善が急務であることは多くの人々の一致した見解であり、それに向け家庭、学校、医療、地域保健、マスコミなどの緊密な協力による対策のシステム化を早急にはかることが必要と考えられる。

学会進行表

8:50 挨拶	開 会 宣 言 J A S C T 松 本 清 一 会長												
9:00 シンポジウム	テーマ：学齢別性教育 副題「生命の尊さを考える」 シンポジスト <table> <tr> <td>千葉大学教育学部教授</td><td>武田 敏 先生</td></tr> <tr> <td>竜王町立竜王幼稚園</td><td>加藤 真理 先生</td></tr> <tr> <td>愛東町立愛東北小学校</td><td>鯉江 浅樹 先生</td></tr> <tr> <td>近江八幡市立八幡中学校</td><td>田中 靖雄 先生</td></tr> <tr> <td>県立彦根商業高等学校</td><td>前野 菊子 先生</td></tr> <tr> <td>滋賀女子高等学校</td><td>森岡 重和 先生</td></tr> </table> 座長 大津市立瀬田北小学校 校長 新野 理三郎 先生	千葉大学教育学部教授	武田 敏 先生	竜王町立竜王幼稚園	加藤 真理 先生	愛東町立愛東北小学校	鯉江 浅樹 先生	近江八幡市立八幡中学校	田中 靖雄 先生	県立彦根商業高等学校	前野 菊子 先生	滋賀女子高等学校	森岡 重和 先生
千葉大学教育学部教授	武田 敏 先生												
竜王町立竜王幼稚園	加藤 真理 先生												
愛東町立愛東北小学校	鯉江 浅樹 先生												
近江八幡市立八幡中学校	田中 靖雄 先生												
県立彦根商業高等学校	前野 菊子 先生												
滋賀女子高等学校	森岡 重和 先生												
11:30 学会長講演	演題：「思春期の挫折と性行動異常」 演者 第10回会長 笠井 寛司（滋賀医大産婦人科） 座長 順天堂浦安病院精神科助教授 阿部 輝雄 先生												
12:00 アトラクション	京都大学交響楽団 弦楽四重奏 曲目 Eine Kleine Nachtmusik （モーツァルト） Divertimento K 136 （モーツァルト） 第1 ヴァイオリン 上田浩之（医学部2回生） 第2 ヴァイオリン 永田素彦（文学部3回生） ヴィオラ 伊藤雅人（工学部4回生） チェロ 鉄井章子（工学部4回生） 【ご注意】 開始後は出入り禁止												
12:30 休憩	休 憩 （昼食）・ 理 事 会												

13:00 一般演題	I 群 座長 滋賀県医師会常任理事 滋賀県法医学会々長 南 條 徹 先生 II 群 座長 滋賀県産科婦人科医会副会長 青 地 秀 樹 先生 III 群 座長 長池優生保護相談所、長池産婦人科 長 池 博 子 先生
15:00 教育講演 1	演題：「山本宣治性科学の現代的意義」 演者 友吉 唯夫 滋賀医大教授（泌尿器科） 座長 神戸市三聖病院々長 斎藤 宗吾 先生
15:30 教育講演 2	演題：「若年者の性行動と避妊」 演者 佐藤 恒治 高津中央病院々長 座長 神戸市山崎産科婦人科医院々長 山崎 高明 先生
16:30	10分間休憩
16:40 特別講演	演題：「私たちの原風景」 演者 京大名誉教授・愛知工大教授 大島 清 先生 座長 山王病院常務理事(前日赤医療センター副院長) 野末 源一 先生
17:40 挨拶 閉会宣言	井 上 省 蔵（県産婦人科医会々長） 閉会宣言（第10回学会長）

幼稚園における性教育

竜王幼稚園 加藤真理

子供の姿

幼稚園の子供達は、この時期に自分の弟や妹が生まれることが多いこともあって、赤ちゃんはどうして生まれてくるのか、という生命の誕生に対する興味や疑問を持つものである。遊びの中でも、友達をおんぶしたり、「おっばいあげて」とか「おむつ替えたげて」など言いながら、赤ちゃんごっこをする姿が見られる。

また、友達の身体に危険を及ぼすような衝動的な行動（例えば首を絞めたり、お腹やおちんちんをたたいたり、蹴ったりすること）や、テレビや兄・姉たちの影響からか性に関するふざけた言動が見受けられたり、うんこ・おしっこ・ちんちん・おしりなどの言葉を、日常の会話の中でおもしろ半分に使っている様子も見受けられる。

基本的生活習慣の面では、入園してしばらくはトイレの使い方にしても、初めての集団生活に対する不安感や、家庭とのトイレの様式（洋式・和式）の違いに戸惑いを感じたり、恐怖感を抱いたりして失敗する子も少なくない。また、大便をする時にトイレを汚したり、紙がうまく使えなかったり、手洗いも十分にできない子供達も見られる。

本園の性教育のすすめ方

基本的生活習慣の確立ができ、誕生・成長の喜びを感じ、互いに助け合い、自分の身体や人の身体・命を大切にしよう、とする態度を養っていけるよう、生理面・心理面・社会面より発達段階に即して指導している。

園生活の中では色々なところで指導が必要になってくるし、特別に性教育の時間として設けるのではなく、ほとんどの場合、生活全般を通して指導するようにしている。

例えば友達にいたずらをしたり、危険なことをした時にはその場でその器官のはたらきや大切さなどを話し、個々にわからせ、かえりの時間など子供達が集まった時などに全体に指導するようにしている。

トイレの使い方・手の洗い方など生活習慣面については家庭に於いて確立されるべきものではあるが、前述したように家庭と園との様式が違ったり、初めての集団生活での戸惑いがあり、失敗したりすることがあるため、園に於いても必要に応じ指導している。

命の大切さ、誕生・成長の喜びを知らせる指導については、園での飼育・栽培を通して生物を大切にすることを養ったり、お家の方に子供あてにその子が誕生した時の様子や家族の気持ちを手紙に書いてもらい、誕生会の時にそれを読む

ことによって、自分が生まれた時の様子や家族やまわりの人達から祝福されて生まれ、大切に育てられたことを知らせ、体や命を大切にする気持ちを養えるようにしている。

子供達が集まった時に指導する場合、教師対園児で教師の話だけを聞かせるのでは集中できない。そのため絵本や紙芝居などを使って、目と耳から吸収できるようにと考えている。

体のしくみ・トイレの使い方・おなかの中の赤ちゃんの様子・誕生の様子などについては手作りの等身大の紙人形や大型絵本を使って指導している。

《資料の紹介・・・スライド3～4分程度》

今後の課題

以上指導の進め方についてあげてきたが、指導についてはまだまだ不十分で小学校とのつながりや用語等について年間カリキュラムの見通しも必要である。

また、子供の姿からおもしろ半分に使っている言葉に対する指導のあり方（年齢的に言いたい時期なので頭ごなしに「言ってはいけない」と決めつけた言い方をするのではなく、おもしろ半分に使う言葉ではないことをわからせるにはどうすれば良いか）また、生命の誕生や赤ちゃんに対して興味や疑問を持った時には、幼児だからと言ってあやふやな答え方をせずに幼児だからこそわかりやすく正しい答え方をしてやることが大切だと思う。その為には教師自身正しい知識や指導力を身につけていけるよう努力する必要があると思う。

小学校における性教育

愛東北小学校 鯉 江 浅 樹

1. 小学校における性教育の目的

性教育とは、生命の大切さ、素晴らしさを基盤とした人間教育である。その目的は、人間尊重の立場から自分自身を知り、異性を含む他者をも理解し、性に対する正しい認識や判断力を育成する事である。だから、青少年の性非行を防止することを直接の目的としていない。性教育を行うことにより結果として、性に対する正しい規範を獲得する事ができ、性非行が減少する事にもなる。

2. 性教育を行うことによりめざす子供像

- (1) 自分の命も他人の命も大切にできる子供。
- (2) 生きていることの喜び、生きることの意義が分かる子供。
- (3) 敬愛の心を持ち、人間らしい社会生活を送ることができる子供。

3. 性教育の指導計画

目的を達成するために発達段階、及び子供の実態に即した適切な計画をたて、系統的に指導する。例えば愛東北小学校では各学年の指導カリキュラムを立案、改善を行っている。

〔1年〕	おふろ	だいすき。	(生理面)
	みんな	ともだち。	(心理面)
	知らない人にさそわれたら。		(社会面)
〔6年〕	ステキで不思議な生命のはじまり。		(生理面)
	気になる男の子、女の子。		(心理面)
	心のブレーキ。		(社会面)

4. 性教育を実施する上での留意点

留意点として、

- ・全教師集団で、研修を深め共通理解のもとに指導にあたる。
 - ・知識を学習すると共に、豊かな心情を培う。
 - ・自ら学ぶ学習形態を大切にする。
 - ・保護者の理解と協力を得て性教育を進めるため、保護者との連携をはかる。
 - ・生理、心理、社会的側面の統合的指導を行う。
 - ・児童、及び地域の実態に即して、地道な指導を継続する。
- 等をあげることができる。

中学生に対する性教育を

八幡中学校 田 中 靖 雄

中学生期には、異性に対する興味や関心が高まり、異性を求める行動が起きる。これは自然なことであり、人間としての成長を考える上で素晴らしい変化である。

しかしながら、最近の子供達を得る情報はまさに氾濫しているといっても過言ではない。その質は「早く恋人を見つけ、恋人はカッコイイ子やカワイイ子を選び、早く性交しなさい」という「煽り」に近い情報となっている。子供達が回し読みしている雑誌を見てみると、そのことがよくわかる。また、人間関係の希薄化が進み、自己の存在の喜びがあまり感じられず、あたたかい心のふれあいが不足した中で育つ子供達の中には、その代償として性的関係を促進させており、特別な指導を要する行動に発展していることもある。反対に人間関係を上手に持てず、人と関わることの出来ない子供の増加も見逃せない。

子供達を取り巻く状況は、荒廃している部分と多様化している部分があり複雑化している。そんな中で子供達には、自分の心や体・相手の心や体を大事にし、男女が互いの人格を尊重しあって、互いに幸せになれる人間関係を築きあげる態度や行動をとってほしいと願う。

そのために、中学生の子供達に教えなければいけないと思う内容は、思春期の心と体、生命の誕生、性欲と性行動（男女の性心理の違いも）、性交、避妊、中絶、性病、結婚、家族、自立、性情報への対応などである。科学的に、互いの人権が守られるという視点から、男女が豊かで創造的で対等な人間関係を築いていくという観点から指導していく必要がある。

公立高校における性教育 青年期の生き方を考える「社会の主人公になるために」

滋賀県立彦根商業高等学校 前 野 菊 子

1. 本校の概要と主題設定のねらい

全日制商業学科 教職員数 65 学級数 18 生徒数 798

本校は県内で二番目の人口を持つ彦根市の南部に設立された商業科単独校である。また城下町の伝統が残り生活面においても厳格な躰を重んじる風がみられるため、生徒もおおむね温厚である。

しかし、近年、テレビ、雑誌などから多様な情報が入手できるため、地域性も薄らぎつつある。特に、「性」に関しては情報が氾濫していたり、屈折して入ってきたり、また共学制度をとっていても男子生徒がいない状況では、男子生徒と離された状態であり日常生活の中から自然に正しく学びとることが難しくなっている。卒業して4～5年もすれば母親になる生徒を前にして「健全な母体の育成」という立場からも、女性の自立を考えさせていくことを研究主題とした。

2. 研究実践の成果及び今後の計画

本校における生徒の意識や生活様式の変化を「生活実態調査」から分析し、今の生徒の優れているところ、欠落しているところを全教職員が明確にしながらこの研究を進めることができた。度重なる性教育委員会の中から、いま生徒に必要な指導内容が導き出され、職員会議に提起され実践されていった。

「人間学講座」は各教科で得た知識を、人間が生きていくための原動力になるよう結びつけたり、自分たちの性（女性）を通して歴史を理解したり、自分たちの性をうまく生かして社会づくりをするためにはどのようにすれば良いのかを考えさせた。

「講演会」では事前に講師の先生と打ち合わせを行い、十分生徒の実態を把握してもらって、「人間の性」の賛歌を感動的に伝えてもらった。生徒の感想文のほとんどが人間のすばらしさに触れられていて、生きることを少しはつかみとれたように思われる。

「全校討論会」は各クラスごとに先ず班単位で討論をし、更にクラス全体で討論をする二重討議方式を用いて、性の問題を自分達の生き方や社会のありように目を向けて話し合われた。雑談はとめどもなくできて、自分の意見が人前で述べられない生徒が多いため、自分の意見を筋道たてて大きな声で発表することもねらいの一つにあげた。活発な論議になるように、事前に各クラスの代表者（学級委員、班長）を集め、討論の仕方の説明や予備討論会を行ったので、クラスのリーダーとしての自覚も少し出て討論の推進役となった。「学習会」においては、「性」についての話となると、生徒より教師の方が身構えて自然な形で流れ

ず、どうしても建前が優先してしまいがちになるのを、「性教育懇談会」を開催することにより定着させることができた。教師同士が本音で語るにより自分自身の性意識を明確にすることができ、ホームルームの指導も気楽になった。

今後の課題としては、これらの実践を総合的にとらえ、性の生物学・性の社会学・性の文学として学び考えられるよう組み立てていきたい。また各教科の学習内容とも深く結びつけ力強いものにしていくと共に学級担任が卒業までの3年間指導できるようにする。

また、現在は学期に一度の講座なので、次回までに間が開きすぎているので、もう少し継続的なかたちにしていきたい。

私立高校における性教育

滋賀女子高校 森 岡 重 和

(1) 学校（滋賀女子高校）における性教育の歩みと位置付け

性教育を本格的に取り組むきっかけになったのは本校保健体育科の企画によって職員研修として黒川義和氏（関西性教育相談所）を招き（1982・昭和57年）講演を聞く機会を得た。翌年度から性教育のプロジェクトチーム（保健体育科の教師のみ）をつくり、これを同和教育の研究組織（同和授業・進路保障・カウンセリング・仲間づくり・基礎学力の各部会は既設）の中に性教育部会を入れ6部会となる。（本校の教師はいずれかの部会に所属し月1回程度の部会を持ち、年度末にはその成果と課題を発表、報告する。）

1984・昭和59年度からは部会メンバーとして他教科（理科・家庭・社会・国語・数学）からも入る。学習していくうちに、性教育もいろいろなタイプの指導があることがわかった。①講師指導型 ――― ベテランの講師を招いて講演をしてもらう。②特別活動型 ――― 学年ごとにテーマを決め、LHRで行う。③特設教科型 ――― 特設のカリキュラムで、「女性学」とか「人間関係学」というような科目をつくり、必要なことを教える。④教科学習指導型 ――― 各教科の学習の中で行う。その中で、講演も行ったことがあるが、部会としては④の教科指導型で行うことになり、教師が主体的に勉強しなければと、「より人間らしい性とはどのようなものであるか。」について探求が始まった。

(2) 私が行っている性教育とは

教育する者のセクシュアリティが、学習者（教師・生徒）に影響を及ぼすだけに、人間の性をどう捉えるかが重要になる。したがって、出来得る限り、研修や書物からの情報を集め、まず性教育部会のメンバーに情報を流し研修をしていく。その中で、意見交換や情報交換が行われ、自ら学習する素地をつくる。

私が行っている教科指導は3年間で行うものである。現在、普通科（4クラス）を1年から現在3年時まで学年進行で理科を担当している。

1年時は理科Ⅰ（3単位）でテキスト（50ページ）「より豊かなヒューマンセクシュアリティを求めて・・・」と題して約15時間を利用して性教育講座をヒトの生殖の分野からつなげていく。2年時は化学（4単位）の高分子化合物から「体をつくる食べ物について知る」を、そして3年時は生物（4単位）から再び「体を支える食べ物と物質交代とガンを考える」を行い、2学期以降「ヒトの生と死」を語る予定です。特に「死」については、ライフサイクルを通した、自己の意志決定を選択するための学習ができればと考える。エイズ・脳死・高齢化社会なども扱う予定である。

小学校の改訂を中心として

千葉大学教育学部 武田 敏

I. 小学校の人体、生殖に関する改訂

現行の学習指導要領理科では、人体に関する学習は小学校レベルで、6年生の呼吸、消化、循環、骨格等に関するものであり、動植物の生物学が主体を占めていた。今度の改訂により、Human Biology が大巾に初等教育に導入され、欧米との内容的差異が縮小されたことは注目に価する。1・2年の理科が生活科に吸収されたが、ここで2年次に「自分の生長」を初歩的に学習する。理科では3年から6年まで人体についての内容が毎年登場する。3年では「人の体のつくり」として目、耳、皮膚等の感覚器官や骨・筋肉等の機能を学ぶ。4年生では「人の体と活動」で運動、飲食、睡眠、人の活動と環境がとりあげられている。6年では「人の体のつくりと働き」として、呼吸、消化を動植物と対比しながら学習し、生命尊重にも言及される。問題は5年生理科の画期的改訂内容であり、「人の発生と生長」のテーマで性教育的内容が集中している。外性器、生殖器の男女差、乳房の役割、変性、精通、初経、思春期の乳房発達、卵と精子の結合、母体内での胎児生長、へその緒の働き等である。動植物の生殖もこの学年で学習する内容となっている。卵巣や精巣内における卵子・精子の生成過程は、減数分裂等この年齢で無理があるので、学習内容から外されている。男女の体のつくりや人の発生と生長を意欲をもって追及し、生命を尊重する態度を育てることを学習目標としている。現行の指導要領では6学年で植物の結実について学習するが、人の生殖との対比は行われていない。

他方新指導要領体育では保健に関する項として「体の発育と心の発達」が5・6年でとりあげられている。思春期と体つきの変化、初経、精通、変声、発毛、異性への関心、性的発達の個人差等がその内容である。従来養護教諭によるスライドや映画を利用した初経教育が小学校に於ける唯一の性教育であったのが実状と言わざるを得ない。これに対し教科教育として小学校性教育が第1歩を踏み出したと見ることができる。

II. 人の生殖学習に関する著者の分類

人の生殖メカニズムを学ぶアプローチは各種提示されているが、著者は以下の様な分類を試みた。

(A) 自己関与的学習

(1) 自己の生命由来

両親相互の愛→結婚、夫婦愛→両親の性関係→母親妊娠、父親・家族の協力と期待、母親の出産・自己の生命誕生、両親家族の喜びと周囲からの祝福、愛情豊かな育児、自己の生長。学習の助けとなるものとして、出生時、幼時の自己の写真、両親の回想談、へその緒、育児日記、母子手帳等がある。母

親と離別している子もクラス内にはいるため、上記の資料を持参できない生徒に対しては、「先生の生まれた時の両親の喜び」等の教師自身の資料コピーを与え、「君のお母さんも、きっとこのような気持ちだったと思うよ」と一部の生徒の心を傷つけないきめ細かい教育的配慮が求められる。

自己の生命由来から学ぶルートは以下の様な特徴と利点をもっている。

- (a) 親から子への生命継承理解。
- (b) 母親への感謝の気持ち。
- (c) 自己の生命創造に関する父親の役割学習。
- (d) 自己の現在の存在に関する家族過程の役割学習。
- (e) 自己の生命尊重意識に連動。
- (f) 自己のルーツを求める関心に一致。
- (g) 自己の生命由来に関する性交は例外なく真面目にとらえられる。

(1) 逆行展開方式

現在の自分から出発し、レトロスペクティブに生命誕生にバックする学習である。

- (a) 現在の自分の身長、体重を調べる。
- (b) 小学校入学時、幼稚園時、2・3才時、生まれた時とさかのぼり、自分の生長を知る。
- (c) 生まれた時の模様を両親から聞く。
- (d) 生まれる前はようになっていたか？
胎児の生長、栄養補給、呼吸等。
- (e) 胎児の一番始めは？
卵子と精子の受精による生命創造。
- (f) 卵子と精子の由来は？
卵巣と精巣で卵子・精子生成。
両親の性交による受精の成立。

本法の特徴は以下の諸点が考えられる。

- (ア) 現在から出発する点で問題に入り易い。
- (イ) 生徒のもつ疑問に乗って連続的に展開し易い。
- (ウ) 現在の自己のルーツとしての両親の存在が合理的に追求できる。
- (エ) 生後の体の生長と母体内胎児生長を一連にとらえ易い。特に前者の経験的知見が後者の理解を助ける。
- (オ) ルーツをたどれば両親の性交まで展開し、これに対する言及が教える側として可能でなければならない。

(2) 自己による生命創造

自己の身体的発育、第二性徴発現、男女の全身及び生殖器の性差理解、

思春期の性意識、性的関心増大、異性接近欲、男女の人間関係、男女交際、恋愛、結婚、性行動、妊娠の成立、自己の子誕生。

- (a) 現状から自己の将来に展開。
- (b) 人生の伴侶選択、結婚を考えさせ、人生計画を展望。
- (c) 成人、独立した人格、自立教育。
- (d) 男女交際の関心と一致したテーマ。
- (e) 性行動に伴う親としての責任学習。
- (f) 生殖の機能を自己の行動選択と結び付けて学習。
- (g) 生命誕生への能動的思考、自己保存の継承欲求に一致。

(B) 客観的学習

(1) 動植物の生殖と人を対比。

比較オルガナイザー的に展開する。

(ア) 植物の授粉→人の性行為・生殖。

- (a) 花の美しいイメージが性器、生殖器の不潔感、性行為の卑猥感を減ずる効果。
- (b) 授粉と人の性交の生理的差異が大きく、共通部分が少ない。
- (c) 古典的、純潔教育時代のアプローチであるため時代錯誤と見られ易い。

(イ) 魚類の胎外受精→人の性行為、生殖

- (a) メダカ等、魚類の学習し易い教材が身近に得られる。
- (b) 水中、空中の生活差から、卵子と精子が乾燥死滅することを防ぐための性器結合が理解し易い。
- (c) 一歩すすめて、脊椎動物の水中→陸上への進化に伴う、生殖メカニズム変化の必然性と理解。

(ウ) 哺乳動物交尾→人の性行為、生殖

- (a) 犬・猫の交尾を見た不潔感、卑猥感が人の性交イメージを悪化。
- (b) 万物の霊長である人間が、動物的性行動をすることへの不信。
- (c) 共通点よりも交尾と性交の差を明確化することの必要性。
人格と人格の結び付きとしての性行為、愛と性の不可分、環境に適応した性行動、性的欲求の社会化。

(2) 社会の性行為・妊娠事例

(ア) 生徒の見聞例より展開

社会的問題化した例に偏重、週刊誌的興味、ポルノ的発想が先行するマイナス面。

(イ) モデリング教材活用による展開

プラス・マイナス両面の実例提示、登場人物による代理教化の効果、社会的に適応した性行動、生殖行動理解、行動選択の必要性学習。

第10回学会長講演

思春期の挫折と性行動異常

滋賀医大産婦人科 笠井寛司

人間の行動あるいは思考における挫折は年齢を問わず起こりうるものである。ただその挫折を不可逆な程に重篤なものと認識するかどうかは個々の人間の感受性や環境その他諸々の要因に負うところが大きい。しかし、男女を問わず思春期においては、挫折というベクトルを概して必要以上に過大に受け止めがちな時期の一つであり、しかもヒトの一生の経過の中では、思春期は身体的にも精神的にも発展的であるという点で、個々の人間の「挫折の評価」は当事者以外には理解し難い深さをもつ。これは、身体的な展開以上に精神的な展開の方向性を広げ、時に社会における異常行動を容易に惹起する可能性があるという点で座視できない事柄である。精神的な異常展開は身体的な異常を伴うことが必ずしも稀ではなく、したがって客観的には身体の「臨床的異常」から当事者の挫折感あるいは挫折行動を類推予知することが望まれる。今回は、挫折に直面した者が、思春期にどのような身体的異常あるいは行動異常を呈するかを概説し、それに対する社会的、教育的（とくに学校生活における）対応が求められるかについて私見を述べてみたい。加えて、挫折に伴う異常行動をDSM-ⅢR（米国精神医学会分類）をもとに性の倒錯ならびに高度経済環境下といわれるわが国における青少年の性の商品化の一端について言及したい。

教 育 講 演 Ⅰ

山本宣治性科学の現代的意義

滋賀医大泌尿器科教授 友 吉 唯 夫

山本宣治（1888～1929）は、日本の性科学の先駆者である。山本はもともと生物学者として、精子の研究をおこなっていたことから性科学への道を拓いた。また科学的性教育の実践は1920年に同志社大学予科で自然科学概論を担当したときに始まる。山本宣治自身は性科学のことを「性学」とよんでおり「性科学」なる語を用い出したのは、山本と並んで性学読書会を主宰していた安田徳太郎（1898～1983）である。

山本宣治の性科学の特質は次のような点にあり、そこには現代にも通ずるものがうかがえる。

1. 性科学発展の妨害因子とたたかわねばならなかった。
 2. 方法論として実態調査を導入した。
 3. 欧米の性科学とその他の関連科学をよく研究し、その成果を取り入れた。
 4. 性教育の目的を明確にし、その実践に力を注いだ。
 5. 科学的性科学が批判すべき対象をはっきりととらえ、その改革に努力した。
 6. 産児制限に深い関心をしめした。
 7. 科学的性知識の普及に講演、出版等により積極的に取り組んだ。
- ここであらためて、山本宣治性科学の現代的意義を評価したいと思う。

教 育 講 演 2

若 年 者 の 性 行 動 と 避 妊

高津中央病院院長 佐 藤 恒 治

日本産婦人科学会では1978年から5年ごとに3回、十代妊娠の実態や若年者の性意識・性行動の変化を全国的規模で調査し、産科的のみならず社会的・心理的な面でも興味ある結果を得た。すなわち全期間を通して変化のない項目と進行しつつある項目の二つに分けられた。一つは殆ど変化のないもので年齢分布、初経年齢と月経の順・不順、本人と相手の職業・教育程度、初回性交（初交）の季節、同棲の割合、性交を行った動機と婚前性交に対する態度、性交相手の数、避妊方法、性教育を受けた場所、月経停止した時の気持ち、妊娠回数、初診時の妊娠週数、妊娠の経過等である。これらの項目は今後も変化なく我が国の若者にとってごく一般的なことになっていると思われる。他の一つは年ごとに進行または退行したもので身長・体重、初交を行った年齢と場所（屋内ことにホテルが増）、妊娠するまでの性交回数（第2回は著しく減少したが第3回は増加）、避妊実行率、性教育を受けたものは毎回増加、「妊娠と云われた時の気持ち」はショックと感じたものが毎回減少し「うれしかった」ものが毎回増加、両親が娘の妊娠を知らないものは第1、2回は42～3%であったが第3回は10%減少、胎児に対する気持ちは第1回と第2回は変化ないが第3回は「かわいそう」と思ったものが10%減少し「かわいい」が増加などで進行した項目では第1回（1978年）から第2回（1983年）では著しい進展がみられたものが多かったが第2回と第3回（1988年）では進行はあっても極く僅かであった。これらのことは日本性教育協会の調査「青少年の性行動第3回」ともよく一致しており、また厚生省の優生保護統計による十代の人工妊娠中絶率をおおまかに反映している。すなわち1975年の女子人口1,000対3.1がその後増え続け1984年には6.5と2倍以上になった。1985年から漸減し1987年には5.8まで下がったが1988年には再び6.0である。しかし今後これまでのように急速に進行するとは考えられないが僅かずつ増加し続けていくと思われる。未婚の望まない十代妊娠は医学的にも社会的にも多くの問題を投げかけているのが現状である。この解決のためにはこの面の先進国であるスウェーデンや米国のように若者が学校でも一般社会でも気軽に性の悩みや避妊の相談、避妊指導などのサービスが受けられる体制が早く作られることが望まれる。そして子供達に人のセクシュアリティについて理解させ、性行動に対して自分で責任をもって選択できるような教育を行っていくべきである。

特 別 講 演

私 たち の 原 風 景

京大名誉教授 大 島 清

原風景とは、乳・幼・少年期における環境のことである。取り囲まれる空間、そこに伝承される文化もさることながら、周囲の人間との交流がもっとも重要な意味をもつ。例えば美しい自然の風景があったとしても、周りの人間との接触や会話が貧弱であれば、脳の発達に歪みを生じ、逸脱したセクシュアリティを生む。

脳が環境からの刺激に柔軟に反応して、シナプスを増やして神経回路網をつくっていく性質のことを「脳の可塑性」と呼んでいる。可塑性が高質を示す時期は脳の部位によって異なる。一般に高等な機能をもつ部位ほど遅い。例えば、思考、判断、創造の座である前頭前野や、視覚野の基本的な神経回路網の完成は八歳から九歳に及ぶ。

また、可塑性の高い時期ほど記憶の痕跡（エングラム）が残りやすい。実は、原風景の質が問い正されるのは、この記憶のからくりのためである。

性意識形成の臨界期が八歳というのも脳の可塑性と無縁ではない。視覚野や前頭前野やそのほかの脳連合野は人間だけに特別に発達し、言語修得に欠かせない部位だが、この言語こそ私達のセクシュアリティの存在に大きくかかわっている。それは、いくつかの野生児の例が示すように、言語を修得していないセクシュアリティを持たない事実が妙実に示している。

また、性意識の逸脱が、多く原風景の歪みから来ることは、昨今我が国にも頻発する性的虐待や殺人事件に登場する青・少年たちの原風景の貧しさをみても分かる。

さて、視床下部の性的二型核の形態的性差が、胎児期にはじまって生後四歳で完了するという事実は、原風景の時間軸を、乳幼児期から更に胎児期にまで遡行させる必要性を私達につきつけている。豊かさを醸成してきた機械化文明は、確かにさまざまに異常な環境因子を胎内の小さな生命をおびやかす、不可逆の歪んだ刻印を押しかねない。

機械化文明の恩恵は確かに大きい、その陰で、人間の心にとって最も大切なよりどころである「土」のある風景が圧殺され、人間の情緒をむしばんでいく。儲けるだけで文化を残さず二千年前に滅亡した通商大国「カルタゴ」の二の舞いを演じてはなるまい。

以上のことを念頭におきながら、胎児の原風景、生後の原風景、そしてこれからの原風景について話を進めていきたい。

一 般 演 題

第Ⅰ群 (13:00~13:40)

座長：南 條 徹 先生

1. 性障害者の臨床面からみた性教育の課題

東京催眠心理研究所 加 藤 隆 吉

2. 大学生・高校生のSTD知識に関する研究

千葉大学教育学部 飯 野 義 博
武 田 敏

3. 当院における未成熟婚について

神戸市山崎産科婦人科医院 山 崎 高 明

4. エイズ情報と性意識の態度変容に関する研究

ーエイズに関する最近の意識調査報告ー

千葉大学教育学部 武 田 敏
日本赤十字看護大学 島 村 忠 義

第Ⅱ群 (13:40~14:20)

座長：青 地 秀 樹 先生

5. Chlamydia trachomatis (Ct) 抗原陽性例に対する治療と患者の性行動

京都通信病院産婦人科 大 島 正 義
滋賀医大産婦人科 野 村 哲 哉、笠 岡 永 光
笠 井 寛 司

野洲病院産婦人科 宮 元 勝 則、中 村 徹

6. 大津保健所管内での思春期保健に対する取り組みについて

大津保健所 前 田 博 明、浜 川 和 子
勝 田 美 代 子、草 野 文

7. 包茎について、性医学の立場からみた私見

大慈彌クリニック 大 慈 彌 俊 英

8. 性生活に与える子宮切除術の影響

千葉市立病院産婦人科 大 川 玲 子

第Ⅲ群 (14:20~15:00)

座長：長 池 博 子 先生

9. パラフィリア症状を呈した一青年の症例

神尾記念病院、JASCTカウンセリング室 堀 一 子

10. 女性アルコール依存症患者における性機能および内分泌機能について

産業医科大学産婦人科 石 明 寛
岡 村 靖

11. 女性重症心身障害者の性機能および内分泌機能について

産業医科大学産婦人科 石 明 寛
岡 村 靖

12. 痴呆老人の性行動のADL、testosterone, β -endorphin に及ぼす影響

小山田記念温泉病院 婦人科 亀 谷 謙
内科 出 口 晃
川 村 耕 造

第 I 群 (13:00~13:50)

1. 性障害者の臨床面からみた性教育の課題

東京催眠心理研究所 加 藤 隆 吉

心因性の性障害者の臨床面から考察すると、その性格の発達過程と因果関係があり、性障害者となる発達過程には未熟な性格傾向がある。

これを早期に発見し、その年齢に対応した対処が必要で、これによって性障害者の発生の減少が可能になるのではないかとと思われる。

この要員を主体とした性教育をすれば、効果も高く、性障害もかなり予防できるのではないだろうか。

性教育の資料になればと考え発表する次第である。

2. 大学生・高校生のSTD知識に関する研究

飯野 義博、武田 敏（千葉大学教育学部）

STD（性感染症）の蔓延、特に若年層のそれが指摘され、その対策が課題となっている。基本的な資料としてSTDに関する彼らの知識の程度を明らかにするために高校2年生男子293名 女子195名、大学1年生男子85名 女子82名、大学2年生男子69名 女子44名を対象として調査を行った。質問紙法を用いてSTD 8つとこれと誤りやすい疾病8つをアトランダムに並べSTDを選別させた。またSTDについては不妊症の原因となるもの、病変が尿路に出るもの等をチェックさせてその理解のレベルを探った。その結果、全ての調査対象群においてエイズがSTDであることを正しく回答出来た者が最も多くいずれも97%以上であった。学校ではほとんどエイズ教育が実施されていないにも関わらず、高率を示した。2、3位も全対象群において同じで梅毒、淋病であった。ヘルペス、トリコモナスの正答率はどの学年でも低くほとんど20%を越さない。クラミジアについては大学生でも20～30%の範囲で淋病等には及ばず、現在最も蔓延しているSTDであるにも関わらず知られていない。不妊症の原因となるSTDとして淋病を挙げた者は高校男子23.5%、女子10.3%、大学1年男子24.5%、女子28%、大学2年男子42%、女子38%である。クラミジアはほとんどが10%を割る。尿路に症状の出るSTDとして淋病を挙げた者は高校男子35.8%、女子12.3%、大学1年男子51.8%、女子19.5%、大学2年男子37.7%、女子27.3%で男女差が見られた。大学2年男子では淋病よりも梅毒に尿路疾患をチェックした誤答が上回っている状態である。STDの病名として高率に挙げられながら、その症状についての知識は欠落しているデータが多く認められた。STDと誤解された疾病としては子宮筋腫、卵巣嚢腫、停留睪丸、前立腺肥大などが上位に散見された。性器の病気が性感染症と混同されていることが推測される。トリコモナスに関する知識は男女ともに低く、その差は少ないが順位で見ると女子の場合相対的に上位に位置している。また病名の知識と症状の知識が平行しており女子に多い疾患であることの影響が認められる。新しい領域のSTD増加が指摘されてから7～8年が経過しているがその状況に対応した知識を学校教育で取り上げていないことが問題である。

3. 当院における未 completion について

神戸市 山崎産科婦人科医院 山 崎 高 明

性情報が巷にあふれ、ティーン・エージャーの妊娠例の増加が叫ばれる一方で、結婚して或る期間経過していながら未だ一度も膣内へペニスの挿入が不可能である未 completion という現象がみられるのも事実である。

患者は32才の♀と35才の♂の夫婦で、結婚して6年経っているが未 completion で、性交恐怖のため内診すら困難な状態であるにも拘わらず子供ほしさに人工授精を希望して兵庫医大に受診し、当院へ紹介されたパートナーである。

この種の患者にはその原因を詳しく知るために生育歴などをよく聴くと共に、自分の性器によくなじませ、違和感を取り除き、細い綿棒、タンポンの細いものから太いものと順次挿入練習を行う脱感作療法を行いながら夫婦間のコミュニケーションの改善をはかるように根気強いセックス・カウンセリングをやっていくわけである。

更に処女膜強靱、膣口の狭小などに原因のある場合は処女膜の切開や輪状切除術も行い、挿入に障害になるものをできるだけ除去するようにする。

当院における1/2として女性側に原因がある未 completion は23例で、上記の如き指導によりうまくいったものは12例で、離婚に至ったものは3例である。また処女膜輪状切除術を6例に施行したが、そのうち4例は挿入に成功したものの2例は未だうまくいっていない。次に男性側に原因が認められる未 completion は24例で、当院の指導でうまくいったものは10例であり、離婚に終わったものは8例である。

更に当院では結婚後15年、23年、22年経っている未 completion 3例を経験しており、これらは恐らく一生このままの状態が続く夫婦であろうと思われるが、戦前あるいは戦後間もない性の抑圧時代に育った世代の人達で、自分達の性知識の欠如が招いたものである。今後はこのような夫婦を作らないように、滋賀県の先生方にもかくの如き症例に関心を持っていただくよう問題提起をしてみたい。

4. エイズ情報と性意識の態度変容に関する研究 —エイズに関する最近の意識調査報告—

千葉大学教育学部 武 田 敏
日本赤十字看護大学 島 村 忠 義

米国に初めて現れたエイズ患者のタイプとニューヨークタイムズのエイズに関する記事数を見ると、1981年の認定患者第一号が発見されて以来、1983年の2年間はハイリスク集団の記事が約10件位であった。だが、1983年に、一般集団に患者が出現すると、エイズに関する新聞記事は50件以上に増大する。こうした現象は日本のエイズ報道記事にも類似している。例えば、日本の朝日新聞のエイズに関する報道件数は初の認定患者がでた1987年には、95件、1986年は99件であった。だが、一般集団の女性患者死亡（神戸パニック）により報道件数は487件と増大している。

エイズ情報の報道が及ぼす性意識に関する若者の態度変容の社会的効果はきわめて大きい影響力を持つことが明らかとなっている。仏「ルモンド」によれば、エイズに関する世論調査では15～24才の青年の7割が改心したと報じている。東京都では、エイズコールが6万件で都の電話サービス回線はパンクしてしまった。

今回のエイズに関する意識調査では、総理府の1987年の意識調査と比較しながら1989年東京周辺地域に居住している人398名を対象に調査した結果をまとめたものである。調査結果について概略すると、エイズに関する情報源はテレビや新聞が大多数を占め、青年層は週刊誌の影響力が比較的多く見られる。エイズ感染に関する知識では総理府の結果と類似したデータが得られた。エイズ情報による態度変容は「エイズに関する本を読む機会が増えた」22.1%、「性行為のとき、避妊具を付けるようになった」20.4%、「トイレでは便器を必ずふくようになった」13.3%、「家に帰ったら必ず、石鹸で洗うようになった」12.8%、等の結果が得られた。また、配偶者が感染した場合の行動は「従来と同様の生活をする」が総理府29.3%に対して、我々の調査では、18.9%であった。これらの結果について、相関係数等の統計的手法を使って詳しく分析し、報告したい。

表1. エイズ情報による態度変容

	は い	いいえ	分からない
床屋や美容院に行く回数が減少した	2.0	97.5	0.6
人混みの中を歩かなくなった	1.0	99.0	0.0
トイレでは便器を必ずふくようになった	13.3	85.2	1.5
異性の友人とのデートする回数が減少した	1.0	78.9	21.1
家に帰ったら必ず石鹸で洗うようになった	12.8	84.7	2.5
風俗営業等の場所に行く回数が減った	3.5	15.6	80.9
ペッティングをしなくなった	1.3	46.7	52.1
キスの回数が減少した	2.3	56.8	41.1
性行為の時、避妊具をつけるようになった	20.4	25.6	51.5
エイズに関する本を読む機会が増えた	22.1	74.4	3.6
エイズの講習会に参加する機会が増えた	6.3	92.2	1.8
献血する機会が減少した	11.8	84.4	3.8

単位は%

5. Chlamydia trachomatis (Ct) 抗原陽性例に対する 治療と患者の性行動

滋賀医大産婦人科 野村 哲哉、笠岡 永光
笠井 寛司
野洲病院産婦人科 宮元 勝則、中村 徹
京都通信病院産婦人科 大島 正義

《はじめに》

STDの一つであるChlamydia trachomatis 感染症は女性側には感染を自覚させるだけの臨床症状に乏しいのが特徴の一つである。われわれはまず罹患者に直接問診ならびに記入方式によって性行動の実態を把握しようと試み、若干の成績を得たので報告する。

《調査対象と方法》

平成元年1月から同8月15日までに滋賀医大、野洲病院および京都通信病院の各産婦人科の一般外来を訪れた30才未満の患者（妊婦ならびに性交未経験者を除く）のうち、膣・外陰炎あるいは子宮頸管炎を疑わせる患者を対象にCtの罹患をスクリーニングした。被験者総数は 例、うち抗原陽性5例（ %）抗体陽性1例を発見した。それぞれの患者に性行動に関する詳細な問診および患者の自己記入によるアンケートを実施した。

《成績》

6名のうち5名（抗体陽性例を含む）から次の如き成績が得られた。患者の年齢は19~27才であり、全て未婚且つ一般的なOLである。初交年齢は16才2例、17、19、20才が各1例である。既応歴のうち最も多いのは膣・外陰炎および膀胱炎である。性交相手の数は不特定多数が1名であるが、全例2名以上であった。性交回数は最も多いのが2日に1回、他は大体1週1回程度の割合である。前戯は全例に認められ、所要時間は全例30分以内である。前戯の内容は区々であるが、cunnilingus 及び fellatio が最も多い。性交体位は全例1回に2体位以上の体位変換があるが、所要時間は15~30分である。性交時には「男が清潔にすること」が女性の要求である反面、自己が清潔にするかどうかについては全く関知していない模様が伺えた。

帯下は全例何らかの形（量、臭い、血液混入の有無等）で自覚しているが、その対応については必ずしも明確ではない。

他方避妊に関する内容は、毎度実施するのは1例だけで、他は排卵期のみと答えている。因にこれらの症例の月経周期は整調3例、不整2例である。避妊の方

法はコンドーム4例、BBT1例、膣外射精2例（複数回答）であったが、その後BBTあるいは膣外射精の方法は医師の指示あるいは膣外射精の無効を知ってピルあるいはコンドームに変更している。直接避妊とは無関係であるが、相手の男性が他の女性と性交したことを知ってから性交する場合にコンドームを装着するのは2例のみであり、他の3例は装着しないと答えている。

相手の男性の身体的状況については具体的につかめていないのが実情である。

これらの抗原陽性の5例（無回答の1例を含む）全例にタリビット600mg/日を投与した処、1週間後には全例陰性と化した。タリビットの有効性が証明された。

《考察》

STDは名の如く性行為が根底にある場合が極めて多いことは周知のことであるが、Ctは女性に目立った罹患意識を与えない。罹患した女性に疾患意識を持たせ、これを通じて男性にも適切な治療を受けさせることが必要であることは言うまでもない。そのためには性行動の実態を把握することが肝要であろう。今回得た成績をもって全てを論することはできないが、女性が男性の身体状況に案外無頓着であることは今後における患者の指導上、一つの指針となると考えられる。

6. 大津保健所管内での思春期保健に対する取り組みについて

滋賀県大津保健所 前田 博 明、浜 川 和 子
勝 田 美 代 子、草 野 文

《目的》

当保健所管内で、10代の人工妊娠中絶件数が増加傾向にあることなどを契機として、思春期の青少年の保健問題とその対応の実態を把握・整理し、関係機関との連携のあり方を明らかにする。とともに思春期の青少年の心身の健全な成長に資することを目的とする。

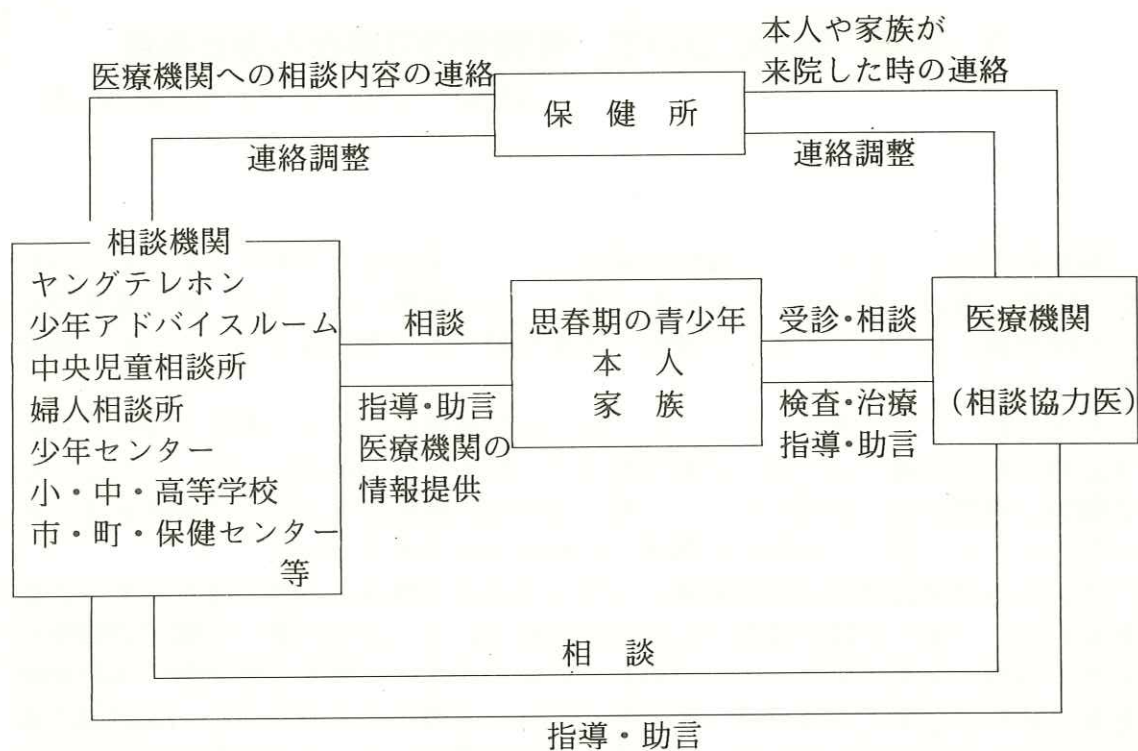
《実施主体》 滋賀県大津保健所

《取り組みの経過》

- (1) 平成2年1月に第一回思春期の性とからだを考える検討会議を開催し、思春期の性に関する悩みの実態と関係機関の対応の現状と問題点を整理し、解決に向けて検討した。
- (2) 平成2年2月に思春期保健研修会を開催し、管内で思春期の青少年の相談に応じている機関の職員等を対象として、10代の性に対する理解を深め援助の有り方を学んだ。
- (3) 平成2年7月に第二回思春期の性とからだを考える検討会議を開催し、第一回会議で課題となった思春期保健相談のネットワーク化について、管内産婦人科医会の協力を得、具体的な方法について検討した。(図1参照)
- (4) 平成2年7月に管内の一中学校のPTA会員を対象に、事前にアンケート調査を行い家庭での性教育の実態を把握した上で、思春期の性のとらえ方や大人としての対応のしかたについて講演会を実施した。

《今後の課題》

今後は、表在化した問題にのみ対応するだけでなく、思春期の青少年自身やその保護者に対して、性に関する知識の普及、並びに生命や人間の尊厳への認識を深めるための教育活動が必要である。そして、教育・医療・保健の分野の連携の在り方について十分検討していく必要がある。



7. 所謂、包茎について、性医学の立場からみた私見

大慈彌クリニック 大慈彌 俊英

現在我が国で行われている環状切開法という、所謂包茎手術は、数千年もの昔から宗教の儀式の割礼として行われてきた、旧訳聖書には7ヶ所、新約聖書でも7ヶ所記載されていて、神との契約と迄神聖視、且つ重要視されているのは何故か？

今から約二千年の昔、イエス キリストが生後僅か八日目に割礼を受けたという記録が新約聖書のルカ伝に記載されて今に伝えられ、現在広く用いられている太陽暦、西暦紀元は別名をキリスト暦と言われ、割礼を受けた日が西暦元年一月一日となっていることは単なる偶然といわれるのであろうか？

アメリカ合衆国では80%前後、イギリスでは半数以上、其のほかイスラエルを始めとして多くの国で現在でも広く行われている、割礼に倣った環状切開法と云う、所謂、包茎の男性に広く行われている手術法は、欧米の医学書や学術文献を見られれば必ず、neonatal（新生児）に行うと書かれてあるのに、我が国においては既に1世紀以上にも亘って、成人男性に現代においても漫然と行われているのは何故か？

8. 性生活に与える子宮切除術の影響

千葉市立病院 大 川 玲 子

子宮切除手術の性行動への影響については多くの研究が見られるが、演者は術前から術後1年までのProspective Studyのなかで、心理テストや愁訴とともに行った性生活の調査について報告する。対象は良性疾患で腹式・膣式に子宮切除術を行った者である。回答者105名のうち、未婚2、死別3、離別5の10名が独身である。術前に性生活の無い者は9名であった。このうち術後に性生活の復帰したと思われる3名を含めて、調査期間中に性活動のある約100名を統計処理の対象とした。術前の性生活の頻度は、週1回以上33%、月1回以上42%、月1回未満22%、無し3%であった。月1回以上の性生活が有るものは、術前75%、術後1ヶ月21%、6ヶ月74%、1年76%で、この数値からは術後6ヶ月で術前の水準に復帰すると思われる。これは愁訴の数や心理テストの得点なども同様の傾向であった。即ち、子宮切除による心身医学的影響は、徐々にではあるが確実に回復し、全体としては予後良好といえる。しかし個別には術後性的活動性が高まる者もあるなかで、1年後にも性生活の無い5名もみられる。また術後心身症外来受診となった患者では、術前術後を通じて性的活動性が低い傾向がみられた。今回は、やや個別的な問題にも注目して検討し、報告する。

第Ⅲ群 (14:10～14:50)

9. パラフィリア症状を呈した一青年の症例

神尾記念病院 J A S C T カウセリング室 堀 一 子

I. はじめに

今回は幼児期に発症していたフェティシズムとマゾヒズムの重複した症状に悩む青年の治療経過を紹介し、当日はその病理の背景と親との関係を検討してみたい。

II. 症例

T男 24才 ♂ 大学生

主訴：女性の下着（パンスト）を身につけて、怪獣にやっつけられるところを連想するときのみ性的に興奮¹⁾しオーガズムを得る。

家族・成育歴：父 51才、母 53才、弟 18才、祖母（母の長姉）73才、祖父 81才

家は書店。T男幼時の頃まで店は繁盛。しかし、母や祖母の古い経営方針と合わなかった父は、店から手をひきスナック店を経営。夜中に寝に帰るだけ。書店はどんどん縮小。母は店番は出来るが、簡単な家事すらできない。そのくせ家族には常識を逸した理屈を押しつけてくる。祖母は母よりひどい。店の経営権は祖母にある。弟は、中2から登校拒否。祖父はただの同居人。T男は成績良く、母の希望する国立大へ入学。

現病歴：3才頃既にテレビで怪獣にやられるウルトラマンのタイツ姿に興奮し、昼に性器をこすりつけていた。小学校に入る頃には主訴のような状態になり、高校生になるとそれが毎日になっていた。19才頃ガールフレンドがいる頃は、少し我慢できた。ここ1、2年、はくのは1ヶ月1回位だが、連想によるマスターベーションはほとんど毎日。

T男は来春卒業だが、今でなければこの病気を治す時がないと思い治療を求めてきた。

III. 治療経過

第1期（1987. 4～1988. 3）：母への怒り

第2期（1988. 4～1988. 12）：就職決定、祖母急死

第3期（1989. 1～1990. 3）：T男の自己分析

第4期（1990. 4～ ）：家を出る

10. 女性アルコール依存症患者における性機能および 内分泌機能について

産業医科大学産婦人科 石 明 寛
岡 村 靖

女性の社会的進出に伴って、女性のアルコール依存症が年々増加の傾向にある。このような社会事象は20才代から40才代の女性の性機能および内分泌機能への障害を惹起する惧れを有するものと考えられる。今回、私達は女性アルコール依存症27名（年齢構成：29～40才 年齢平均：34.5±4.1 年）について性機能および内分泌学的検討を行ったので、その成績について報告する。

これら27名の患者の中、25名は入院治療を行った女性アルコール依存症であり、2名は外来通院で挙児希望の女性アルコール依存患者であった。初潮に関しては、全症例が12～15才に発来している。続発性無月経となった者は25名（92.6%を占める）で、その中第1度無月経14名、第2度無月経は11名であった。また稀発性月経は2名であった。

全症例はいずれも性生活における冷感を訴えた。血中F S H, L H, P R L, およびE₂の測定、そしてL H-R H testの成績から診断すると、第Ⅱ度無月経11名はいずれの症例もHypergonadotropic hypogonadismを呈した。

11. 女性重症心身障害者の性機能および内分泌機能について

産業医科大学産婦人科 石 明 寛
岡 村 靖

女性の重症心身障害者（身体的、精神的障害が重複し、且つそれぞれの障害が重症である児童および満18才以上の者）の思春期の指導、および結婚、妊娠、分娩、に関して、性機能および内分泌機能の検討は大切な意義を有している。これら患者の社会的理解は近年深まりつつあるが、性機能および内分泌機能についての報告は少ない。

今回、私達は女性の重症心身障害者15名（年齢構成： 28.2 ± 4.7 年、重症者分類Ⅱ型の者、全例未婚）について性機能および内分泌学的検討を行った。初潮に関しては、15名中12名において、14才以後に発来した。2名は不明で、残り1名は12才であった。続発性無月経となった者は9名（60%を占める）で、その中第1度無月経は6名、第2度無月経は3名であった。また、15名いずれも乳房および恥毛の発育は正常であった。6名においては自慰行為は持たれている。続発性無月経患者9名の血中F S H, L H, P R L, および E_2 測定成績から診断すると、Hypogonadotropic Hypogonadismであった。

12. 痴呆老人の性行動のADL, testosterone, β -endorphinに及ぼす影響

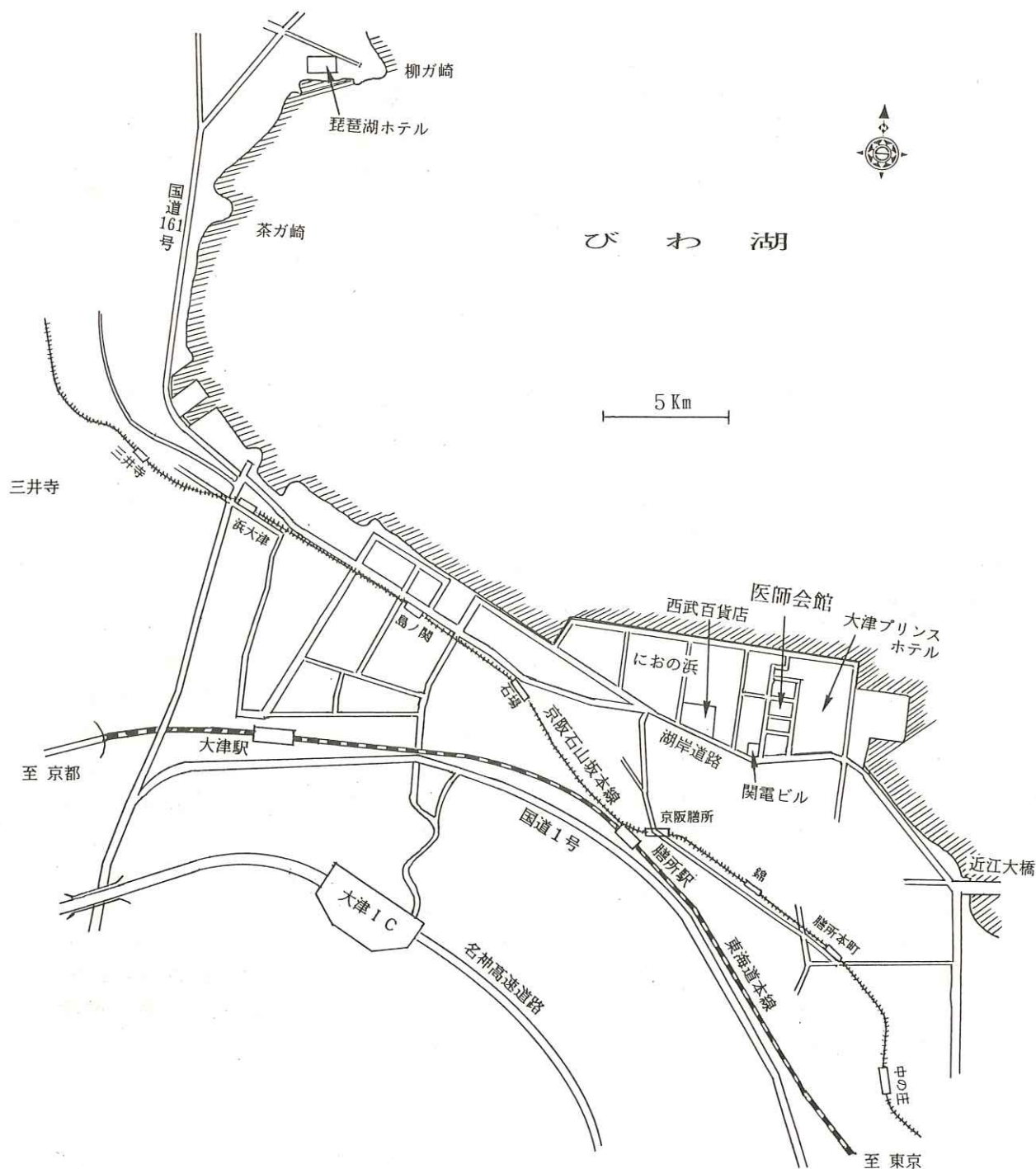
小山田記念温泉病院 婦人科 亀 谷 謙
内科 出 口 晃
川 村 耕 造

〔目的〕 老年の性機能がどの程度に持続し健康状態に影響するものかを検討する目的で性行動の老人（70～90歳）のADL, testosterone, β -endorphin 値を検討した。

〔方法〕 今回は、第2小山田特別養護老人ホーム（痴呆老人を主として収容する施設）に於いて、性行動のある人の健康状態やADLが、性行動のない人に比べてどのように推移するのかを調査し、併せてtestosterone, β -endorphin の値を比較検討した。

対象は100人の入所者の中で性行動、性交の認められたA群5名（男4名、女1名、年齢70歳～90歳）、キス、握手、会話等のプラトニックな交際と思われるものB群4名（男3名、女1名、年齢79歳～87歳）と、それらの認められないコントロールC群14名（男8名、女6名、年齢75歳～85歳）である。入所期間は1年以上である。

〔結果〕 A, B, C各群でADLが入所時と現時点でどのように変化するかをt検定にて検討した。A群 入所時 18.6 ± 3.0 現時点 15.6 ± 4.5 差 3.0 ± 3.4 で低下していない。B群 入所時 17.3 ± 3.9 現時点 10.5 ± 7.6 差 6.8 ± 4.5 で10%の危険率で低下している。C群 入所時 18.4 ± 2.3 現時点 11.6 ± 8.7 差 6.8 ± 6.9 で1%の危険率で有意に低下している。estradiol, testosterone, β -endorphin の値については各群間で有意差はないがA群のtestosterone値と β -endorphin値との間には正の相関が見られた。（ $R = 0.84$, $p < 0.1$ ） この研究で老齢の健康にSexが大きく関与していることが分かる。



医師会館

琵琶湖ホテル

★医師会館への目印

大津市におの浜 4-4-1

大津市柳ガ崎 5-35

☎ 0775-24-1273、2692

☎ 0775-24-1255

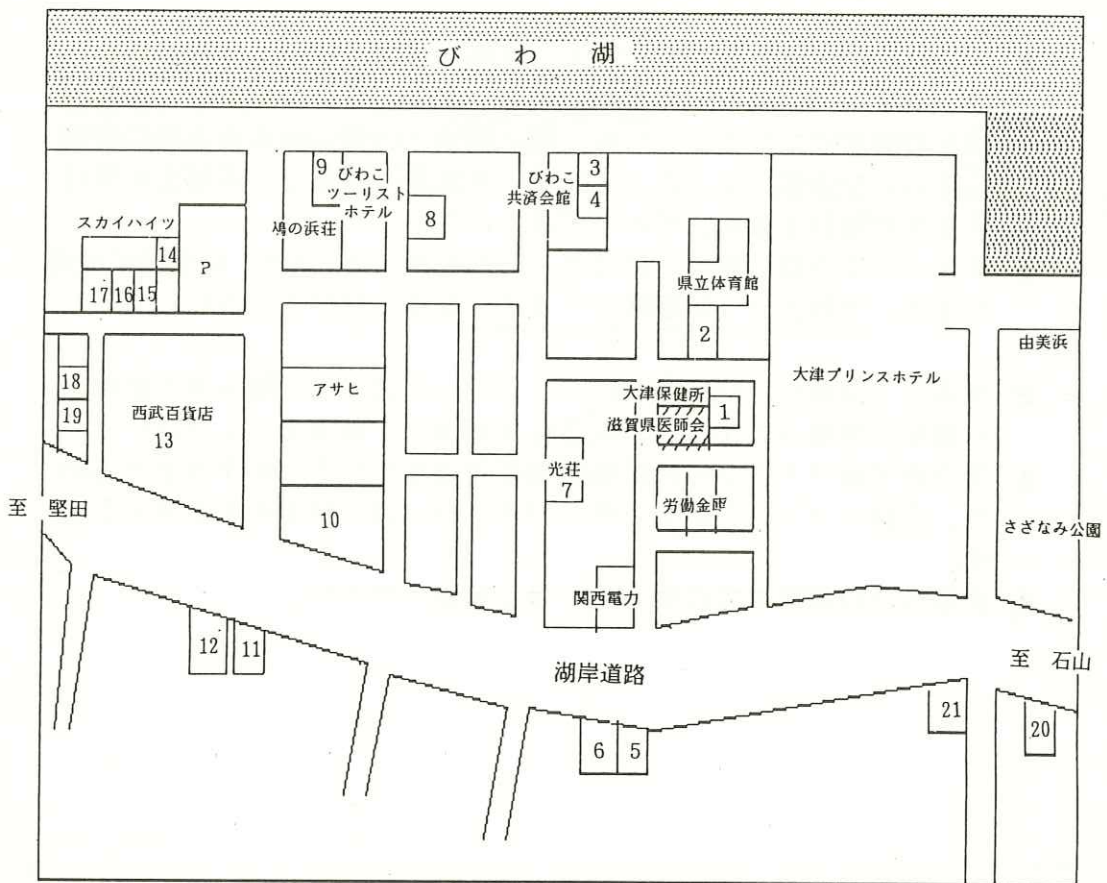
38階建 大津プリンスホテル西2筋目 (JR大津駅寄り)
湖岸道路沿い関電ビル横を琵琶湖側へ。

JR膳所駅 (各停のみ停車) 徒歩10分

JR大津駅 タクシー10分

第10回日本性科学会

会場付近 案内図	片道5分まで	同5～10分
	1. 一誠寿司 2. のぞみ (県立体育館) 3. レストラン比良 4. 喫茶・スナック若竹 5. 福助本店 (寿司)	8. 喫茶イーストウッド 9. レストランにおのはま 10. グリル喫茶エース 11. 焼肉さんまい亭 12. 元祖近江牛 かね吉
	同10分以上	
	13. 西武大津レストラン街 14. お食事処・お好み焼 鉄平 15. 鶴喜そば 16. カフェ 花の木 17. 手打ちうどん 四国	18. 義仲そば 19. 喫茶コンコルド 20. 喫茶ラームール 21. フレンドリー



【お願い】

- ★ 第10回学術集会の参加費は「無料」です。ただし参加各位は適宜受付で所属と氏名をご記入ください。
- ★ 日産婦・日母所属の各位には研修シールをお渡し致します。
「産婦人科」と表示した受付テーブルでご記名の上お受取ください。
∴ ∴ ∴
- ★ 過密スケジュールで大変ご迷惑をお掛け致しますが、各セクションの演者は時間を厳守ください。
- ★ 一般演題のスライドの枚数は制限致しません。
プロジェクターは1台のみ用意致します。
発表時間は1題7分、討論3分、計10分です。
持ち時間1分前に青ランプ、終了時に赤ランプで合図します。
- ★ 特別講演、教育講演およびシンポジウムともにプロジェクターは1台に限らせて頂きます。
∴ ∴ ∴
- ★ 休憩時間が切迫致しております。会場（医師会館）には食事処がありません。会場近辺の食事処の図（次頁）をご参照の上、適宜昼食をお済ませください。なお、図の網掛け店舗には本会の為に特別の計らいを依頼してございますが、客席数の関係でご不便をお掛けするかも知れません。予めご了承ください。
- ★ J A S C T 役員以外の方には当日のお弁当（¥1,500）を受付にて承ります。9時30分（時間厳守）までにお申し付けください。
∴ ∴ ∴
- ★ 理事会（役員会）は休憩時間（12:30-13:00）に3階大津市医師会々議室で開催されます。役員各位は遅滞なくお集まりください。
- ★ 学会終了後のタクシーは医師会館前ではなかなかつかまりませんので、近接のプリンスホテル前でのタクシーのご利用をおすすめします。
- ★ 会場へは自家用車でのご乗入れはご遠慮ください。